わが修二校

平成２９年度　第１号

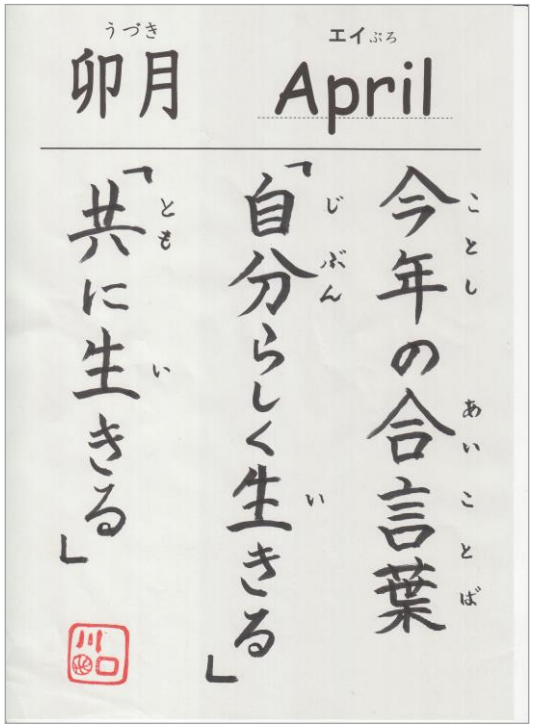
平成２９年４月１１日
京都市立修学院第二小学校
校　　長　　川口　正二

今年度もよろしくお願いします。

平成２９年度が始まりました。校長の川口正二でございます。昨年度本校に赴任し，２年目を迎えることになりました。今年度も，教職員一同，修二小学校教育の発展のために力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

この「わが修二校」も，昨年度に引き続き発行いたします。別紙「修二だより」に加え，学校の様子や本校児童の活躍，皆様にお伝えしたいことなどを掲載していきたいと考えています。「わが修二校」というタイトルは，修二校を更により良い学校にしていくために，子どもたちに母校である修二校を誇れる気持ちを持ち，自分に自信を持ってもらいたいという気持ちを込めてつけたものです。保護者，地域の皆様にも，本年度も引き続き，“修二っ子”たちが自信を持つことができるよう，良いことを見つけ，認めてやっていただきたいと思います。また，時には厳しくご指導いただきたいと思います。修二校教育へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

４月のことば



今年も，私から児童に向けて毎月一つずつ「今月のことば」を発信していきます。その時々に考えて欲しいこと，心がけて欲しいことなどをメッセージとして示していくものです。

今月は**「今年の合言葉　『自分らしく生きる』『共に生きる』」**です。今回は，月のことばというよりも，１年間常に考えて欲しい，機会あるごとに振り返って欲しいことばとして，始業式でも子ども達に話しました。

人が人として生きていくために，また人がこの社会の中で生きていくために必要な力や態度が，この「自分らしく生きる」と「共に生きる」です。学校で行われる教育も，すべての事がこの２つに集約されると言っても過言ではないと思います。また，人の一生においても生涯大切にすべき生き方だと思うのです。

今年度の**修学院中学校ブロック小中一貫教育構想**の中の「めざす子ども像」として

「将来の展望を持ち，『自分らしく生きる』ことのできる子ども（主体性）」

「人や自然を大切にし，他と『共に生きる』ことのできる子ども（社会性）」

を掲げました。本校の今年度学校経営方針にも盛り込まれています（今年度学校経営方針は後日ホームページにアップします）。

今年度，学校教育目標に「自分の将来を切り拓いていくことのできる子どもの育成」という新たな目標を加えました。子ども達が自分の将来や生き方を考える学習をについて研究を進め，自分の個性について考え，自分は将来どのように生きるのか，今何をすべきなのかなど，自分の生き方を考える態度を育成していきたいと考えています。そしてそれと同時に，それぞれの人の生き方を尊重し，人権を大切にし，互いの違いを認め合うことのできる「共に生きる」態度を育成するための取組を充実させていきたいと考えています。

そのためにも，子ども達が常日頃から，今自分のしていることは「自分らしく生きる」ことに繋がっているのか，「共に生きる」姿勢になっているのか，ということを振り返りながら過ごしてほしいと思っています。そのような意味で，新たな一年の始まりに当たり，この２つの言葉を“合言葉”にしてほしいと子ども達に訴えました。

平成２９年度行事予定について

「修二だより・４月号」に本年度の主な行事予定を掲載いたしました。地域等の行事，各種団体などとの関連もできるだけ考慮し，無理のない日程にしたいと考えていますが，諸般の事情によりご無理をお願いすることもあるかと思います。予めご了承ください。また，あくまでも予定であり，変更される場合がございます。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

本校では，**休日参観**を年２回実施しています。学校教育は教職員だけでなく，外部から招くゲストティーチャー，警察や消防など関係機関，地域やＰＴＡとの協力，連携によって行われているという様子もご覧いただきたいと考えています。また，道徳についても年間２回の公開授業を行うことになっており，本校ではこの２回の休日参観の機会を利用し，多くの皆様に見ていただくよう設定しております。このような趣旨で実施している関係で，１回の参観だけにおいては，担任の教科の授業が少ないこともございますが，ご理解いただきますようお願いいたします。

「修二っ子」の活躍

「左京南支部巡回図画工作展」出品者表彰　…　２月に行われた支部巡回展（支部校長会・図画工作研究会主催）に本校を代表して出品された１４名が表彰されました。

＊学校関係のコンクールや展覧会に限らず，外部のスポーツ大会等など，本校児童の活躍の様子を朝会等で全校児童にも紹介し，この「わが修二校」にも掲載して保護者，地域の皆様にお知らせしています。

京都はぐくみ憲章
社会のあらゆる場で実践し，行動の輪を広げましょう！

この印刷物が不要になれば
「雑がみ」として古紙回収等へ！